

国連軍縮大阪会議閉会発言

2003年8月22日

国連アジア太平洋平和軍縮センター所長

石栗 勉

参加者の皆さん、聴衆の皆さん、とても忙しい、関心のある会議を終えるに当たり、私から閉会の言葉を述べさせていただきます。

これまで、国連アジア太平洋平和軍縮センターは、日本国政府だけではなく、多くの日本の都市と素晴らしい関係を確立し、維持してきました。そのおかげで当センターはこれまで15回の国連軍縮会議を日本で開催することができました。今回の会議は15回目になります。

この15年の間に、多くの変化が世界に見られました。したがって、この国連軍縮会議で討議されるテーマも、環境の変化とともに変わってきました。ただ、15回の会議に共通して言えることは、参加者が発表される報告内容の質の高さです。毎年、私はこの会議で発表される、さまざまな知識や経験の質の高さに強い印象を受けてきました。今年も例外ではありませんでした。参加者の皆さんには、お一人お一人が時間をかけて準備され、素晴らしい発表を行っていただいたことに感謝を申し上げます。それに加えて、本来であればゆっくりと夏の休暇を楽しんでいたであろう所を、ご多忙にもかかわらず、わざわざ遠い日本にまで足を運び、この会議のためにほとんど1週間を過ごして下さったことを心から感謝しております。皆様のような参加者がいらっしやなければ、この会議を開催することもできませんでした。ご出席いただいたことに心から感謝の意を表します。

また、報告者の皆さんには、素晴らしい発表の要約をしていただきました。30くらいの数の発表がありましたから、それをまとめることは至難の業だとは思いますが、素晴らしい要約をしていただきました。会議の公式の記録というわけではありませんが、発表いただいた内容は詳細にわたっており、今回の会議の内容を反映する情報として、今後の重要な情報源になると思います。真剣な、示唆に富む対話が1週間にわたって行われました。その内容のすべてを覚えておくことはできません。したがって、記憶にとどめるという意味において重要な貢献だと思います。

大阪会議を準備するに当たり、当センターは二つの主要な目的を設定しました。一つ目は、軍縮と不拡散の問題について、このような目標を促進するには好ましくない現在の国際的な環境に照らして包括的に再検討を行うことです。二つ目は、軍縮と不拡散教育に関する国連の研究について、提言と合わせて、紹介し検討するということでした。私は、本当に真剣かつ具体的な討議が全体会議で行われたおかげで、この二つの目標は十分に達成されたと確信しています。そういった意味で、皆さんの建設的な参加と議論に感謝しますし、大阪会議から前向きな成果が出たことについても、皆様のご協力の賜物だと感謝

しています。

核軍縮と不拡散の問題に関しては、何人かの参加者の方が、現在の核兵器の保有、核兵器の今後の役割に対するアプローチ、新世代の核兵器が開発される可能性について、憂慮と懸念を表明されました。さらに、核軍縮と核兵器保有国の説明責任、あるいは核軍縮措置における透明性の分野において、遅々として進展がないことについて失望を表明されました。いずれにせよ、参加者は NPT がグローバルな不拡散体制の礎であること、また核軍縮を追及するにあたって重要な基礎である点を確認しました。

テロリズムを含めた新たな脅威が台頭し、問題が増加しているにもかかわらず、こうした問題があるからこそ、世界的な核不拡散体制を強化し、核軍縮を促進していく措置が必要であると参加者は認識しました。そしてこれらの対策としてさまざまな例が挙げられました。

1. CTBT の早期発効、また、核兵器もしくはその他の核爆発装置実験停止の継続。
2. IAEA の保障措置を強化し、追加議定書の普遍性を高めること。
3. 国家政府のアクションが必要とされる輸出管理の強化と、国連と国際社会が一体となって規範を形成することの重要性。
4. すべての NPT 加盟国の遵守を強化するための安保理の役割。
5. 2000 年の NPT 再検討会議で採択された 13 措置の十分かつ効果的な実施。
6. 大量破壊兵器とその材料の拡散に対する G8 のグローバル・パートナーシップの履行。
7. 核爆発装置へのテロリストのアクセスを阻止するための保障措置、物理的防護、輸出規制の措置をとり、強化していくこと。
8. 拡散防止構想 (PSI) については、グローバルな体制の遵守を強化する措置の一つとして受け入れられる可能性があること。
9. 1992 年の安保理において、大量破壊兵器の拡散は国際の平和と安全に対して脅威であり、またこれについては政治的な空間がなく、核兵器保有国は一体となって拡散に抵抗し、防止しなければならないという議長声明が出され、この声明の内容を 5 核兵器国が制度化する可能性。
10. 核軍縮・不拡散にむけ、法律、政治的な制約を核兵器国にかけること。

阿部事務次長は、核の惨事、あるいはその恐怖を知らない新しい世代の人たちが政治家になっており、そういった意味で軍縮、不拡散教育の重要さはこれまで以上に増している、と述べられました。

大阪会議においては先生方を招いて、軍縮・核不拡散教育の国連研究について初めてのフォーラムが開かれました。パネリストや先生方は国連の研究について、あるいは現場でどのようなことが行われているかについて、意見の交換を行いました。すでに書かれている提言が、たとえば広島、長崎を訪問するという形で実施されているケースもあることがわかりました。また、この国連の研究とその他の教育プログラムや教材について、さまざまな現場での経験を交換することが有益なる旨も指摘されました。さらに、国連の研究成

果を広く伝える必要があります。

国連アジア太平洋平和軍縮センターでは、多くの地域軍縮会議を日本のさまざまな都市やアジア太平洋地域で開催してきました。ほとんどのセッションが一般に公開されています。この大阪会議も含め、センターの会議が、軍縮、不拡散に関する一般市民の皆さんの理解を深める上で役立つものと考えています。当センターは将来もこうした機会を確保し、軍縮、不拡散の教育にとくに焦点を当てた企画を今後も考えていきたいと思っています。

大阪市には、この軍縮教育セミナーに多大な協力をいただきました。国連の研究内容について、軍縮・不拡散教育の推進提唱者となっただけの可能性があるのではないかと思います。当センターは、今後も軍縮に関連したイニシアチブを促進していきたいと考えています。

これまでの15年と同様、日本国政府の政治的・資金的サポートがなければ、この対話のプロセスを継続することは、不可能ではないにしても、難しかったと思います。日本国政府に心から謝意を表します。

今年の会議については、大阪市の資金的、あるいは運営面における支援がなければ開催することができなかつたでしょう。磯村隆文大阪市長には、素晴らしい環境作りをしていただいたことに感謝申し上げます。また、この会議を大阪で開催するに当たり、土崎敏夫様を初めとする受け入れ委員会、とくによい会議の施設とホテルの設備をご提供いただき、ありがとうございました。大阪市の皆さん、これまでこういった会議の開催の経験がなかったにもかかわらず、この会議が円滑に進むようきわめて多大なご努力をいただき、本当にありがとうございました。

またJTBの皆さん、この1週間にわたり、移動の問題、ホテルのアレンジメント、移動のスケジュールの調整などをしていただき、ありがとうございました。これまでのご努力に感謝申し上げます。

また、参加者を代表し、通訳者のすばらしい仕事に対して、またインターグループのご協力に対して、今回の会議の成功に不可欠な通訳業務を提供していただき、本当にありがとうございました。

そして最後になりましたが、私どもの同僚である事務局スタッフに感謝の言葉を向けたいと思います。今週だけではなく、この会議開催の交渉の段階から協力をいただきました。事務局の支援がなければ会議を開催することは不可能でした。事務局の皆さん、ありがとうございました。

私たちにとって、とても忙しい1週間でした。今週、国連の多くのスタッフがバグダッドで生命を失うという大きな悲劇を経験しました。皆様からいろいろと哀悼のお言葉や励ましのお言葉をいただきました。ありがとうございます。必ずニューヨークの本部に伝えたいと思います。私は、加盟国、そして多くの皆さんの貢献によって、国連は世界のあらゆる場所で、必要に応じて、重要な作業を今後も継続していくものと確信しています。今

日ご参集いただきましたすべての皆さん、そしてすでに離日された参加者の皆さん、私どもアジア太平洋平和軍縮センターの今後の作業に引き続きご支援をいただくことをお願いします。

皆さん、ご家庭、あるいは愛する方のもとへ、よい帰国の旅につかれますように。これをもって大阪会議の閉会を宣言します。